

両郷地区市政懇談会
会議録

日 時：令和5年7月24日(月) 午前9時30分～午前10時45分
会 場：両郷地区公民館

懇談テーマ1

安全・安心な地域社会（交通安全）について

学校への通学がスクールバスになったことで、交通事故の回避に役立っていると思う。
これから学校の統廃合などがあっても、スクールバスでの通学を続けていただきたい。

【回答】

スクールバスにつきましては、統廃合や学区の再編により通学する学校が変更となった児童生徒への特例として運行しております。そのため、今後も統廃合が行われた際には、これまで同様にスクールバスでの通学で対応していく考えでございます。

懇談テーマ1【再質問】

ますます学校の生徒さんが少なくなると思いますが、これから統合する予定の学校はあるのですか。

【回答】

現在、統合に向けての準備を進めているのは、湯津上地区におきまして、佐良土小学校、蛭田小学校、湯津上小学校を統合いたしまして、令和6年4月から新たな湯津上小学校としてスタートする予定で、ただ今準備を進めてございます。

懇談テーマ1【再質問】

たまたま、この前、両郷中央小学校の1年生が6名の入学ということで聞いていました。児童総数が62名くらいです。だんだん減ってくる。

中学へ20名くらいが進学して、6名が新入生ということで、この後それほど増える傾向はないと思うのですが、こういった場合に、どの程度の人数というか基準のようなものというのは市の方で何か考えがあるのかなということで、お聞きできればと思います。

【回答】

今お話がありましたように、児童・生徒の数が減ってまいりますと、クラス編成にも支障をきたしてくると。1クラスの人数が減るということは、それだけ授業等々もなかなか難しくなってくるのかなというところもございます。

そういったところも含めまして、児童・生徒の減少数を予測しながら、お答えをしていく必要はあるのですが、今のところ明確に何人減った場合に統合するとそういった形の明確な数字的なものというのはございません。

ただし、これから児童・生徒がまた減っていくというのは見えておりますので、今後どのような形で統合していくかというのは教育委員会内部で協議の方をますます進めていかなければならないと認識をしておりますので、ご理解いただければと思います。

懇談テーマ2

男女を問わず結婚しない若者が増えており、子どもの数が減少している一つの理由になっていると思う。話を聞くと、「結婚して自由を束縛されたくない。」という理由と、「結婚相手が見つからない。」と言う人も多くいる。

婚活アプリなどは、犯罪にも使われ、利用したくないと言う人もいるので、市が現在行っている婚活マスター制度のより一層の拡充と増員を行い、活躍の場を市が主導して強力に支援して欲しいと思う。

【当日補足事項】

男女を問わず、最近、若者がひとりでいる方が増えてきて、子供の減少、少子高齢化の一つの原因になっていると思われます。話を聞くと収入もある。自由に生活できる。結婚して束縛されたくないというような意見と、相手が見つからない、結婚したいがそういった機会がないというような話がありました。

婚活アプリなどは犯罪にも使われるということで、全く知らない相手に接触したくないという人もたくさんいると聞いています。

市で現在行っている婚活マスター制度、そういったものの一層の人員の増加、活躍の場、そういったものをPRと同時に強力に支援して欲しいと思い、質問をさせていただきました。

【回答】

全国各地で未婚率の上昇や少子化が進んでいるなか、各地の実情に応じて独身男女の出会いの機会を提供するなど、自治体による婚活支援の取組が行われています。

本市では、結婚に関心のある独身男女の縁結びをボランティアでしてくださる方を「大田原市婚活マスター」として認定しており、現在、31名の方にご活躍いただいております。

婚活マスターには、結婚に関心のある独身男女が気軽に出会える場として定期的に開催する「おしゃべりタイム」に同席いただくなど、婚活に対する支援をいただいているところでございます。

婚活マスターは、本市在住で20歳以上の方であれば、養成講座を受講するなど、所定の条件を満たすことで認定を受けることができます。毎年、募集を行っておりまして、応募いただける方は多くない状況ではありますが、今後も引き続き、結婚に関心のある独身者の出会いを仲介する「婚活マスター」の人材育成に努めてまいります。

なお、「おしゃべりタイム」につきましては、事前申し込みを要せず、市内外から自由に参加できますので、結婚に関心のある独身者が身近におられましたら、気軽に「おしゃべりタイム」に参加いただけるよう、お声掛けのご協力をいただけますと幸いです。

懇談テーマ3

教育・文化・スポーツ（文化財保護）について

大宮温泉神社の4月の例大祭においての、久野又の獅子舞、中野内の太々神楽の奉納や山車を出すとなると結構な人手が必要で、また、それらを行うための準備・練習等、地域の方々への負担が大きく、厳しい状況になっている。

今後、神社の神主・総代・世話人・地域の方々とで充分話し合いを行い、これからの活動方針や継承して行くべき事柄を決めて行くにあたり、市役所の担当部署そのほか関係するの方々にも、ご協力をお願いしたい。

【回答】

大宮温泉神社につきましては、中野内太々神楽保存会及び温泉神社獅子舞保存会に対しまして、補助金を交付し、その活動を支援しているところでございます。

過疎化、少子高齢化による無形民俗文化財の担い手不足につきましては、全国的な問題となっております。

奉納行事に係る人員につきましては、これまで地域の方々に限っていたこととは存じますが、今後は地域に限らず広くボランティアを募集する等、検討する必要があると考えています。

資金面につきましては、近年クラウドファンディング等、新たな資金調達方法もございますので、ご検討をいただければと考えております。

人員、資金とも、市で直接対応することはできませんが、その他につきましては、ご相談いただければご対応させていただきたいと考えております。

懇談テーマ4

大田原市長に就任されて1年と数か月、難題を抱えてその中で決断を下す厳しい日々之苦労されていることと思うが、この先にある未来像があるから頑張れるのだと推測し、期待している。この未来像について、その攻めの具体策をお話しいただきたい。

旧黒羽町の4地区、特に両郷地区について、元気が出るお話をいただきたいと思う。

市長の公約の中からや、それ以外でも良いが、建物も含めて両郷地区や旧黒羽町の4地区の振興に関して、この1年数か月の間にやってきた事、できた事、これから進めて行きたい事柄やその内容についての話をお聞きしたい。

建物については、黒羽体育館や山村開発センターが取り壊されると聞いている。

その他にもあるかも知れないが、取り壊して更地にするのはやむを得ないのかもしれないが、その跡地をどう振興につなげて活用して行かれるのか、計画・方針等をお聞きしたい。

去年は、旧湯津上・黒羽地区の振興について、侍塚古墳などの歴史的資源を活用して進めて行く旨を市長自らお話しいただいたので、今年も市長の考えを伺えればと思う。

【当日補足事項】

「市長になったら大田原を盛り上げたい」と相馬市長はおっしゃっていましたが、与一まつりと大田原マラソンの復活ということになりまして、街中のにぎわい、活気が出てくるだろうと期待しております。

一方で、歴史ある黒羽に目を向けてみますと、過疎とか高齢化に加えて、建物の老朽化などが進んでおります。管理されなくなってしまう、人が住まなくなってしまうというような悪循環があるのかなとも思っています。

そこで、市長になるときの公約で述べられておりました「歴史と伝統文化を生かしたまちづくり」、これを目指しているのだという未来像などをお話しいただけたらと思うのですが、そのための具体策、若い人が活躍したくなるような仕掛け作りの進み具合ということをお話しいただければということで、このような質問を書きました。

そのようなことをお話しいただけると、本地区の元気の源になるだろうと思っています。そのようなことを期待しているのですが、回答の方を読ませていただくと、インフラ、ハード面、そういったものの整備などで、時間とか予算などが食われてしまっているのかなということを感じます。そのようなものと並行して、地域の振興というか、そのようなものもお話しいただければと期待していた訳なのです。

それから、建物については黒羽体育館と山村開発センターが取り壊されるということに

なっているようですが、そういった跡地の活用とか、侍塚古墳とかそういったものをつなげて、全体で、那珂川沿いと言うのか、そのようなところをどのような理想というかビジョンをお持ちでやっていっていただけるのか、まだ1年と少ししか経っていないということで、構想はまとまっていないのかもしれませんが、任期の中でどのようなタイムスケジュールでやるのか、臆気ながらも結構ですので、全体像などをお話いただければと思います質問をしました。

【回答】

令和5年度の市政運営に必要となる予算編成は、「生命を大切に政治」、「市民の声を形にする政治」を実現するために、全ての事業について必要性や費用対効果を厳しく見極め、予算の適正配分を図る一方で、物価・燃料高騰による経常経費の増加や実質賃金が低下し、経済の先行きが不透明な状況下において、「市民の生活を守る」ことを最優先に、生活に直結するサービス経費は維持、拡大を図ったところでございます。

また、4年ぶりに開催する与一まつりと大田原マラソンを通じて「地域の活性化」を目指した予算として編成したところであります。

「両郷地区や旧黒羽町の4地区の振興に関して、この1年数か月の間にやってきた事、できた事、これから進めて行きたい事柄やその内容についての話をお聞きしたい。」とのことですが、本市の現状といたしましては、持続可能なまちづくりを進めるうえでの大きな課題であります、「財政の健全化」に向け「大田原市財政健全化検証委員会」を設置し、様々な助言等をいただきながら、「財政の適正化」に向けた見直しを優先的に実施しているところであります。

令和4年度に実施した、旧黒羽町におけるハード面の整備につきましては、交通事故防止や日常生活の安全性、快適性の向上を目的に、令和3年度から令和6年度にかけて、市道南金丸桧木沢線の道路補修工事を順次進めているところでございます。また、令和3年度からの継続事業で、森林資源の効率的・効果的な活用を図るための、林道「塩の草須佐木線」の道路整備を実施したところでございます。

その他にも、市道須賀川21号線清水橋及び北野上17号線大杉橋の橋梁補修工事実施の他、令和4年3月の地震による黒羽温泉五峰の湯災害復旧工事や、消防施設整備事業として桧木沢第8分団第4部の火の見櫓解体及びホース乾燥塔設置工事、市営住宅大豆田2号棟の給水管改修工事などを実施したところでございます。

令和5年度につきましても、市道須賀川19号線市場橋の橋梁補修工事、黒羽温泉五峰の湯エレベーター更新工事、消防施設整備事業として、北滝第7分団第5部の火の見櫓解体及びホース乾燥塔設置工事の実施を予定している他、学校関係の整備事業として、学校給食センターの食器洗浄機更新や、小中学生が快適に勉強に励めるよう、両郷中央小学校、及び黒羽中学校の特別教室の空調設備設置工事を予定しているところであります。

今後につきましても、まずは、安全・安心な市民生活を確保するための事業や、公共施設の効率的な維持管理による施設の長寿命化を図るための事業などについて、緊急性を考慮しながら計画的に実施してまいりたいと考えております。

黒羽体育館や山村開発センター等の公共施設につきましては、令和3年3月に大田原市公共施設個別施設計画を策定し、個別施設ごとの維持管理や廃止等の対応方針と時期を定めました。

さらに昨年度には、廃止や譲渡の方針が出された施設につきましても、大田原市公共施設

マネジメント推進プロジェクトチームを設置し、課題や手法の研究を進め報告書にまとめたところでございます。

報告書において、黒羽体育館及び山村開発センターについては、建物を取り壊し、跡地は一体的な利用として、民間活用又は、公共施設として整備を検討することと示されまして、現在、庁内において具体的な計画・方針について検討に着手したところでございます。

また、必要となる場合には、意見募集やパブリックコメント等により意見を募ることを考えているところでございます。

【回答】

先ほどの1年経過して、活性化の話ということでご質問をいただきまして、私の方からお答えさせていただきたいと思っております。

先ほども両郷地区の3番の大宮温泉神社のご質問にもございましたように、大田原には今まで先祖代々、色々継承されてきた伝統文化というものがあろうかと思っております。そういったものを継承をいかにさせていくかということがひとつあると思っております。

文化財のことにつきましては、この地元出身の青木義脩先生がいらっしゃるしまして、文化財の活用、文化財の研究においては第一人者でございますので、本年の1月に行われました「歴史と観光シンポジウム」でも、コーディネーターを務めていただきまして、大田原の歴史をどう生かしていくのかということについてのまとめ役ということで、お務めをいただいた経緯がございます。

私は大田原市内の史跡であつたり色々なものがあると思っております。例えば道祖神であつたり、色々な観音様とか、色々なものがあります。

私もまだ勉強不足でわからなかったのですが、ひとつ言えば、黒羽に北滝というところがありますが、そこに恋人観音というのがあるということで、これは黒羽町史の中にも恋人観音というのがございます、あとは萬蔵山(満蔵山)の観音堂にしゃもじがあつて、そのしゃもじを借りて妊婦さんに食べさせると安産になるというような言い伝えがあつたり、そのような各地区において歴史的なもの、語り継がれているものがたくさんございます。

そういったものをもう少し掘り下げて、調査をして、それを地域の魅力にしていきたいというのが私の考え方でございまして、前津久井市長の時から発掘が行われておりました湯津上地区の東山道駅路の調査におきまして、今調査が進んでいる訳ですが、上の原Ⅱ遺跡というところに調査が入っているのですが、ただの東山道駅路という、道だけではなくて、区画溝が発見されました。二重の区画溝がありまして、その他にもあるのではないかとということで、今これらの調査を進めています。

この区画溝が見つかったということで、今まで歴史的に謎だった「磐上駅家(いわかみのうまや)」という中継点、駅家、今でいう中継地点みたいなものですがけれども、その役所跡ではないかと推測されるような遺跡が出てきておりますので、そういう調査もこれから上の原Ⅱ遺跡につきましては調査を進めていきますが、それら以外にも色々調査をしたり、専門家の意見を聞いたりして、今まであつたものを、どういう意味合いがあつてここに立っているのだということも明らかにしていかなければいけないと思っております。

ここ黒羽におきましては、松尾芭蕉翁が13泊14日で、「おくのほそ道」の中で一番長く逗留をされたということで、その14日間、何をやっていたのかというようなことであるとか、芭蕉の句碑がたくさんございますが、そちらに行つて車が果たして駐められるのかとか、色々な方が来られた時に、そういったところを自由に見て回れるような、そういうものが大田原市

として発信をしていかなければならないと考えておりますので、私も今日、名札をつけているこの組紐ですが、これも大関増業氏が残しました書物「止戈枢要（しかすうよう）」の中に書いてある大関組紐というものを再現をして、今この首につけさせていただいている訳でありますけれども、ひとつひとつ、大宮温泉神社であったり、その来歴がどうであったのかとか、色々なところを見ていきたいなと思っています。

この両郷地区も、前郷と後郷といいますか、その2つがあって、合わさって両郷ということで、前郷というのがどうも山の手の方が前郷と呼ばれていて、それはやはり雲巖寺が関係しているのではないかと言われておまして、その手前、後郷の方には寺宿という自治会名も残っているので、やはり寺宿というのはどういう意味合いで名前が来ているのかとか、そういうひとつひとつ、色々な地区にある史跡を調査をさせていただいて、その来歴を明らかにすることで魅力を発信できると思っておりますし、それを発信することで多くの方が大田原に来て、周遊というか見て回っていただいて、そこでお昼を食べていただいて、観光やなで鮎を食べていただいてということで、この大田原地区に注目をしていただく、そういったことも大変重要なことだと思っておりますので、今学芸員の方々をお願いをして、那須与一伝承館などでは、昨年は福原地区の山城がありましたというような発表とか、福原地区の歴史的なものを発表したり、今年は親園地区に焦点を当てて、その調査結果を展示、そして発表するということになっておりますので、そういった地区ごとにあるものを、ひとつひとつ丁寧に来歴などを調べながら、ひとつひとつでありますけれども、それを最終的にはトータルとして全て情報発信できるような、そして、市内外から多くの方に来ていただく、そういうまちづくりを進めて、地域の活性化にしていきたいと思っております。

先ほど大宮温泉神社の中でお話がありました、中野内のお囃子につきましては、4月に行われます大田原の屋台まつりにおきまして、大久保町の屋台に乗っていただいて、お囃子を披露していただいているということで、大変素晴らしいお囃子が聞けるということで、屋台まつりの中でも注目の中野内自治会のお囃子ということになっておりますので、そのような神楽であったり、色々なものを調べて、それらを発表していきたいと思っております。

防災協定を結んでおります、那須与一の関係で親交のあります宮崎県の椎葉村ですが、そこは各地区に神楽が今でも残っていて、21くらいの神楽をずっと大切に保存継承しているということも聞いておりますので、椎葉村のそういった取り組みも参考にしながら、大田原の今まで伝えられてきた伝統文化を大切にしながら、大田原の魅力を発信していきたいと考えております。

お答えになったかどうかわかりませんが、そのような考え方で地域の活性化に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

懇談テーマ4【意見】

直接、市長からお話を聞けるというのは、大変ありがたいことだなと思います。市長の歴史に対する熱意というか、尊重していただける、そういう気持ちを本当に熱く感じました。ありがとうございます。

話題が変わりますが、たまたま一昨日から昨日にかけて、遠くに住んでいる身内がうちに寄って、食事会などをしたのですが、その時に、東京から来て、「すごい、すごい」とずっと言っているのです。私も毎日、田んぼの草刈りをしていて、朝5時半、6時くらいから2、3時間、草刈りをしているのですが、そういう管理があって、すごくこう散歩に

行っても気持ちが良いと言っているのです。

ただ、先ほどの住民の平均年齢が67歳と言うと、自分もあと何年できるのかなと。その景観はあと何年維持できるのかなと思うのです。

他から来た人にとってみると、うちの周りはすごく環境が良い。例えば今サイクリング、自転車で回っている人も結構います。バイクももちろんですが、気持ち良い、綺麗だということがあるのですが、このようなことを、今あるものも生かしていけるような方策、そのようなことも市長のお考えの隅に置いていただければ、振興にも繋がるのかなと思いますので、頭の隅に置いていただければと思ってお話ししました。

懇談テーマ4【再質問】

体育館と山村開発センターの建物を取り壊すということで、跡地利用の件なのですが、具体的にはどのような計画があがっているのでしょうか。

できれば、あそこには大雄寺があって芭蕉の館があって、お城山の公園があるということなので、そのような関連した施設ですか、そして、子供からお年寄りまで皆さんが集まって楽しめるような施設があると良いなと思って質問させていただきました。

【回答】

黒羽体育館、山村開発センター、どちらとも市の施設を全体的に今後どうしていこうかという計画の中では2つとも廃止という方向、体育館については、廃止というか大田原の体育館と複合化というところがございます。

つまりは、今の現状から体育館は今現在も使えていないので廃止。山村開発センターもご存知の通り今危険な状態ということでございます。

予定といたしましては、令和9年頃からという現在の計画では再整備ということになっているのですが、跡地をどうしようかというところはまだ具体的なものはございません。

ただ今、庁内で公共施設の検討委員会というものがございますので、その中で、係長クラスを中心に山村開発センターそれから黒羽体育館の跡地をどのようなものにしていこうかというところの計画を策定中ございまして、早ければ年内にはおおまかな方向性が見出せると考えております。

何らかの案ができましたら、皆様にご提示いたしまして、必要によっては、もっと広くパブリックコメントなども実施していきたいと思っております。

地域の皆様にとって重要なもの、今でも重要な地域でございますので、良い施設を作りたいと考えております。

懇談テーマ4【再質問】

こういったインフラの更新というか、そういったことについては市の方で予算を割いて悩まれているのだらうなと思っておりますが例えば過疎債の活用とか、あるいは資生堂さんから上がってくるような予算、多分固定資産税になるかと思うのですが、そういったものの増額とかというようなことをどのようにお使いになるのか。使ってやっていく予定があるのかどうか。

やるからにはこうガッツとやれるようなことで考えていらっしゃるのではないかと思うのですが、その辺について、もしお考えがあればお話しいただければと思います。

【回答】

まず過疎債のお話なのですが、当然、施設整備がこういう形でするよとなった場合には過疎債を活用したい。有利な借入れですから過疎債を充当していきたいとは思っているのですが、何でもかんでも過疎債を使えるということではないのです。

国の基準に従って、こういうものには借りられるけれども、こういうものには借りられないというのが明確に基準が定められているということと、過疎地域の持続的発展計画に明記する必要があるということで、当然そこに施設整備が決まれば、計画の方に載っていない状態であれば計画を変更して、事業を計上した上で過疎債を借りるという形で、過疎債は適切に入れていきたいと考えております。

【回答】

市の財政の全般的なお話をさせていただきたいと思いますが、財政が健全かどうかということにつきましては、まず、その自治体の行政サービスが全国と比べて平均的かどうかということ、それから予算の収支の均衡が図られているかということ、3つ目ですが、何かあった時、今回のコロナもそうですが、大きな災害があって万が一、収入が入ってこなくなっような状態、それであっても貯金があってもなんとかやりくりできる余裕があるかどうか、この3点が財政が健全かどうかという一つの基準になっております。

大田原市の場合、行政サービスについては水準であると考えられております。ただ、毎年の予算を作る時に、収支の均衡という面ではやや不安が残るところです。

それから、余裕があるかどうか、これにつきましては、具体的には貯金なのですが、貯金が全国の市の中で下から5、6番目しかないのです。

皆様のご家庭でも貯金があると思いますが、もうスカスカの状態、何かあった時になかなかうまくできないなど、柔軟な対応ができないという状況まで、2、3年前に下がってしまったところでございます。つまり、まだ財政的には課題があるというところでございまして、資生堂さんが新入されてこられましたので、確かに固定資産税は増加しておりますけれども、全体的にはまだ大田原市の財政というのが収支の均衡を保てる状態にはまだなっていないというところでございます。

ここ2、3年は一番ひどい時から比べますと、徐々に回復傾向ではございますけれども、いまだ貯金から不足分を下ろしているという状況でございます。

公共施設の整備というのはかなりお金がかかっておりまして、維持でも毎年数億円かかっております。今後もたくさん作った施設が老朽化してきますので、維持しつつも廃止という方向もございまして、それでも解体しますからお金が必要でございまして、ただいま公共施設の再整備に向けまして、財源を何とか捻出いたしまして、公共施設整備等基金という、公共施設に特化した貯金があるのですが、この基金に毎年数千万から億円単位で積立をいたしまして、現在計画をしている計画の実現に向けて調整を図ってまいりたいと考えております。

【回答】

インフラ整備について簡単にお話しさせていただきたいと思っております。

インフラ整備のうち、メインとなりますのは道路とか公園ということになってくると思いますが、大田原市に限らず、一般の自治体ですと、建設部にだいたい8%くらいの予算が振り向けられます。

大田原市の場合は310～320億前後くらいの当初予算を持ってございますので、概

ね28億前後くらいが建設部としての予算として入ってくるという中で、維持にかかるものについては概ね28億のうちの24億前後くらいは、道路の、例えば舗装の打ち替えであるとか、公園の維持補修であるとか、そういったことに振り向けられますので、実際、新規でやるというのは数億円くらいが新しい事業に振り向けられる力があるということでございます。

新規事業につきましては、当然、単独費となると市がまるまる100%持ち出すもの、補助金であれば国からの補助をいただいて、ある程度、事業費を膨らませて事業を実施できるということになりますので、毎年予算を作成する場合には、予算編成方針というものがあまして、その中で効率的に予算を運用しなさいという指示がある。これは財政当局の方から出てきます。

したがって、国庫補助を受けられるようなもの、事業費を膨らませてやるようなものについて、どうしても取り組むということになりますので、その4億をどう有効に使うかということになってきますので、インフラ事業で新しいものというのは限られてしまうので、やはり維持管理、メンテナンスというものについて、どうしても中心になっていくというのが現状でございます。